

9歳（小学4年生）

【体力の状況】

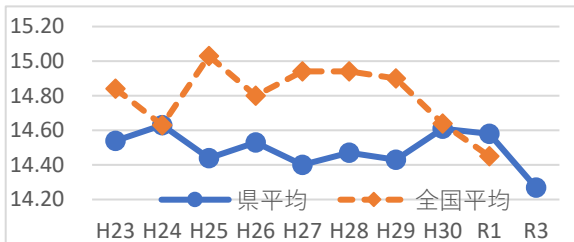
注目1 長座体前屈は緩やかな向上傾向にありますが全国水準を下回っています。

注目2 20mシャトルランは過去10年間で最も低い値となっています。

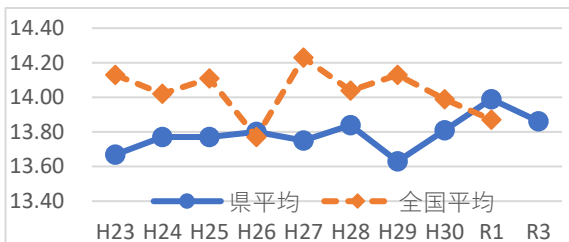
注目3 ボール投げは男子で低下傾向が顕著です。

過去10年間の調査結果の推移グラフ

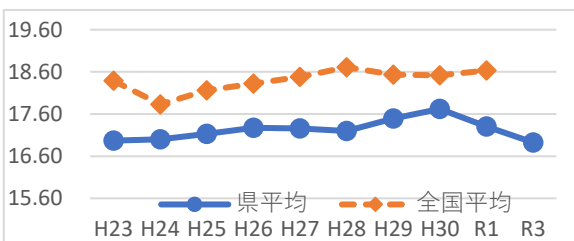
【男子】 ①握力



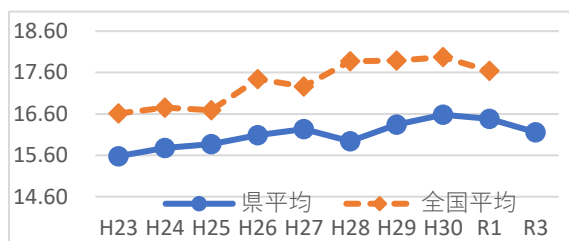
【女子】 ①握力



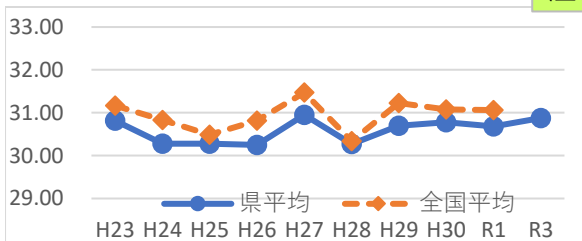
②上体起こし



②上体起こし

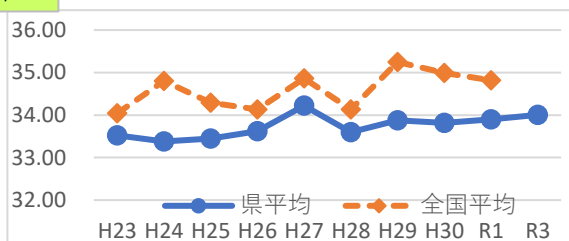


③長座体前屈

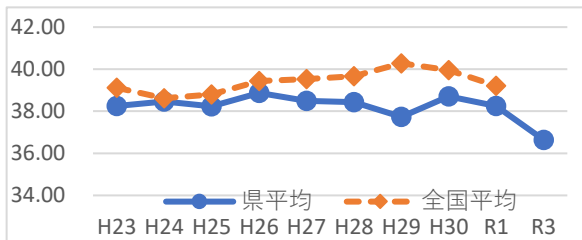


注目1

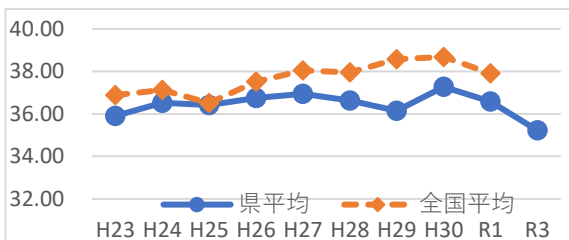
③長座体前屈



④反復横跳び

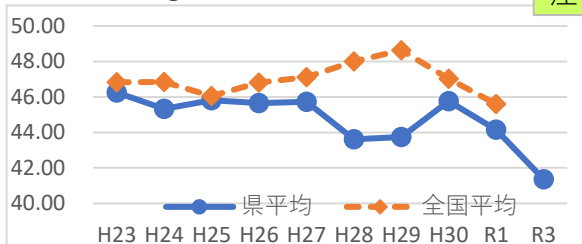


④反復横跳び

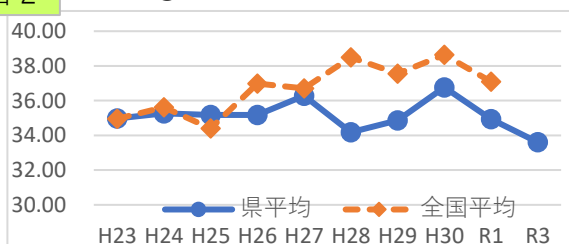


⑤20mシャトルラン

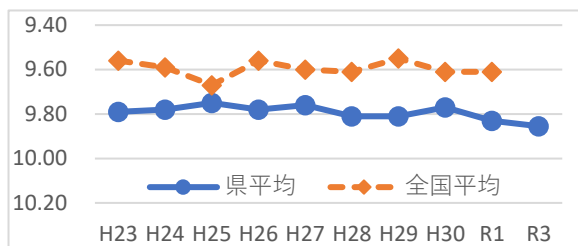
注目2



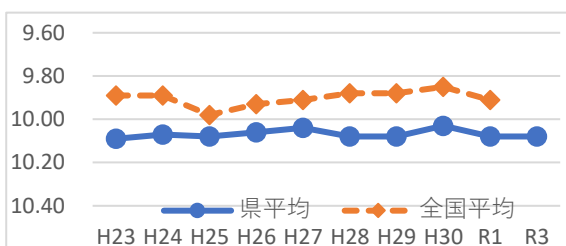
⑤20mシャトルラン



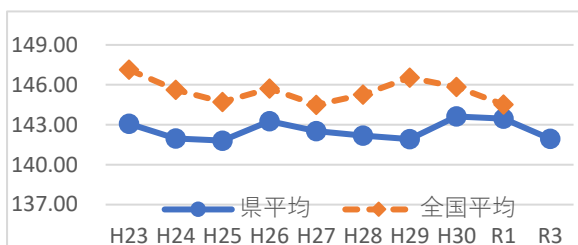
⑥ 50m走



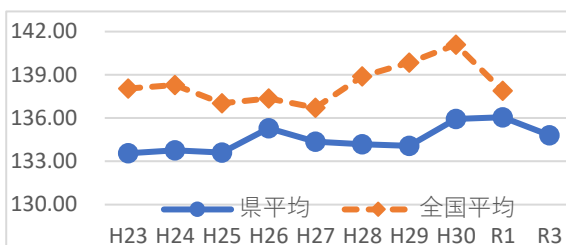
⑥ 50m走



⑦ 立ち幅跳び

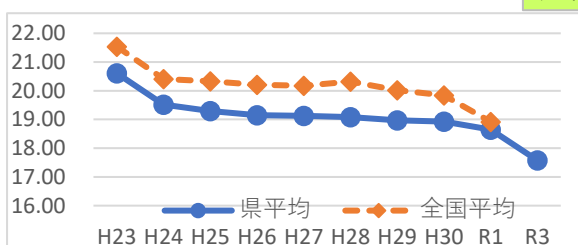


⑦ 立ち幅跳び

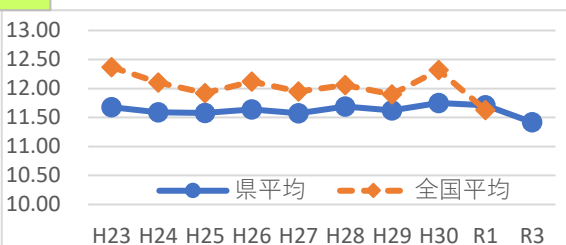


⑧ ボール投げ

注目3

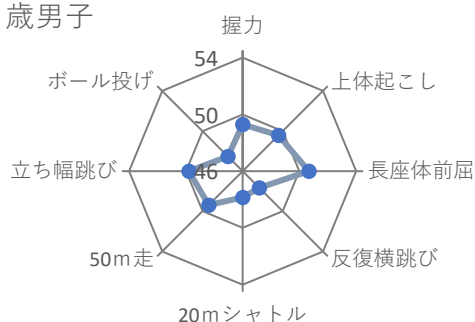


⑧ ボール投げ

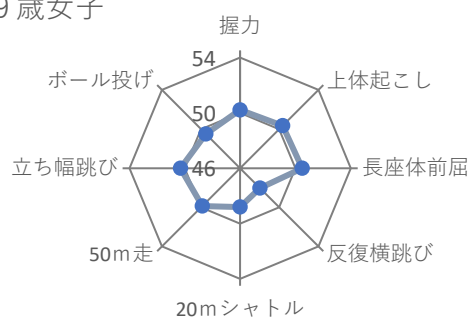


県基準値を50としたときの本年度の平均値のTスコアによるレーダーチャート

9歳男子



9歳女子



【指導上のポイント】

中学年の児童は、低学年の児童に比べてスムーズな動きや複雑な動きができたしたり、思考と活動の分化が進み、自分の動きを意識したり理解したりすることもできはじめます。そのような発達段階を踏まえ、次の点に配慮した指導が大切になります。

- ① 児童の発達の段階に応じて、運動を楽しくできるようにすること
- ② 進んで活動を振り返り、自らの力に応じて活動を工夫して運動の楽しさを広げることができるようにすること
- ③ 運動を楽しく行う中で各種の運動の基礎となる感覚を育みつつ、基本的な動きや技能を身に付けるようにすること
- ④ 最後まで努力して運動をする態度を育てつつ、日常生活にも生かしていくようにすること

